

# The Living Road

進化する道

アートが育つミュージアムロード



歩道の拡張・熱反射塗料の使用。車の速度抑制にも。何より高層ビルからの眺めは絶景。

## 01 現状と課題

いつもの道を、“楽しく歩ける道”へ

ミュージアムロードは、美術館をつなぐ道として、日々多くの人に利用されています。一方、舗装や建造物の色や形が単調で、歩く人の記憶に残りにくい場所にもなっています。また、夏には日影が少なく、速足で通りすぎる光景が広がります。「通り道」から「滞在したくなる道」へ。人とアートがもっと出会える空間へと進化させる必要があります。

## 02 ビジョン・コンセプト

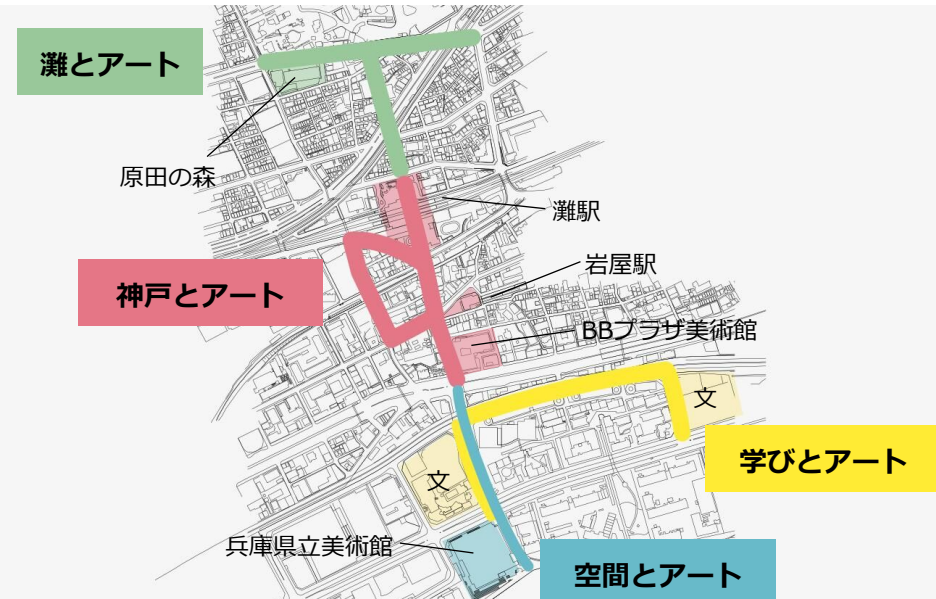
アートが人をつなぎ、人がまちを育てる

The Living Road は、子どもから大人までが関わり、描き、重ねていく進化する道。人の手が加わるたびに表情を変え、まちとアートと一緒に育っていく。これがビジョンでありコンセプトです。



## 03 全体構想マップ

ミュージアムロード一帯を一つのキャンパスに見立て、**灘、神戸、空間、学び**、それぞれのアートが道の上で重なり合います。歩くほどに出会いが生まれ、物語が連なっていく構成です。



# People Move 人が動く

## テーマ① 灘とアート

### 動き出すスタートライン

王子公園駅を降りた瞬間、足が自然と前へ動き出す。動物たちの足あとが導き、色とりどりのペイントが道をつなぐ。デジタルの看板には、触れるたびに形や音が変わる仕掛けを加え、人の動きがアートになる、動き出すスタートラインを描きます。



### 過去と未来の交差点



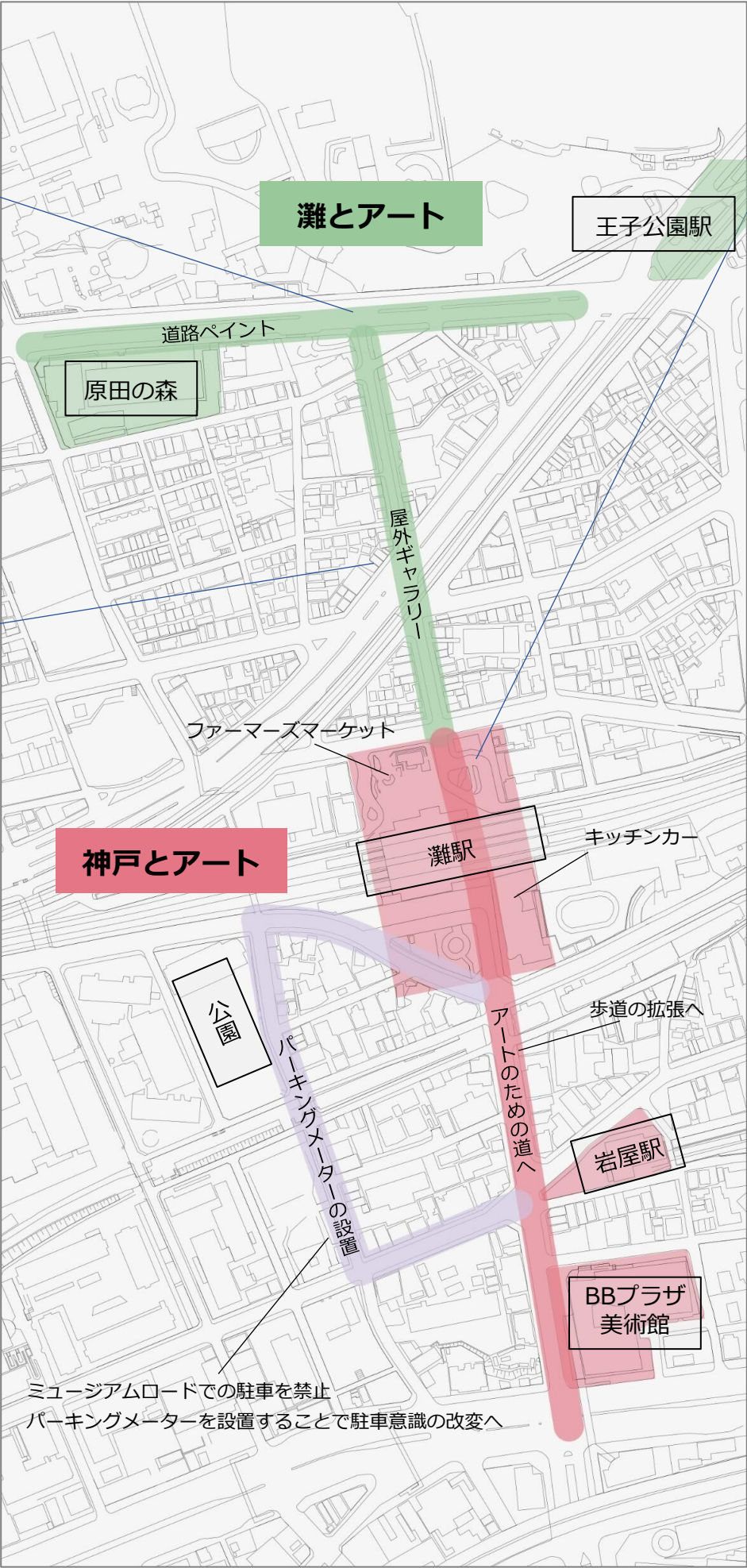
歴史ある高架橋に向かって、現代の色彩で描かれた一本の道が伸びていきます。高架、電車、そして道が重なり合う場所。その時間と動き一瞬一瞬がアートになる。通り過ぎる人が思わず足を止める、動く美術館がここに生まれます。

## 04 参加と更新の仕組み

街の壁や木々を、飾る場所に変えます。商店のシャッターや建物の外壁には、額装したアートや布作品を展示。季節やイベントごとに入れ替えながら、街全体がひとつの屋外ギャラリーになります。木々には、夏は風鈴や花飾り、冬は灯りや布絵を。四季の移ろいを感じる装いが、街に彩りを添えます。自治会、老人ホームや地元の学校、幼稚園・保育園と協働し、企画・制作・展示・更新を住民主体で進めます。店のシャッターが閉まっても、街の進化は止まりません。



治安面の安心感：描き込み式ではなく飾る形式なので、落書きの心配がなく、取り外しやメンテナンスも容易。経済面：布を使うことで低予算でも継続可能。



## テーマ② 神戸とアート

### 灘の森テラス



灘駅2階のエレベーター前。待ち時間の数十秒。多くの人が大きな窓から駅前を眺めています。その視線を、街へ誘うきっかけに変えます。毎週末には、駅前広場でマーケットイベントを開催。会場全体をひとつのアートのようにデザインし、見る人の心を惹きつけるにぎわいをつくります。北側には、デザイン性の高いアーティスティックなテントを配置。南側には、選りすぐりのおしゃれなキッチンカーを並べます。テントの間隔を広くとり、空いたスペースには人工芝や屋根付きベンチを設置。立って食べるだけでなく、地べたに腰を下ろしたり、木陰で語らったりできる“アウトドア・リビング”が生まれます。出店数をただ増やすのではなく、イメージに合った出店を厳選し、灘駅をブランド化。ゆとりのある配置が、人を滞在へと誘い、街とビジネスが育ち合う相乗効果を生み出します。街とアート、経済がひとつにつながる、神戸の新しい顔として灘駅が生まれ変わります。

## 05 安全性・快適性への取り組み

この区間は、路肩が広く、路上駐車が景観を乱しています。車道を2車線へと整え、空いたスペースを歩行者とアートのための道に生まれ変わらせます。近隣には駐車場を整備し、車を誘導。車のスピードも自然と落ち、街全体がやさしく包まれます。道路へのペイントには熱反射塗料を採用。夏の日差しをやわらげ、安全で快適な歩行空間をつくります。高層ビルから見下ろすと、神戸らしい海と山の色が一枚の絵のように街を描き出します。

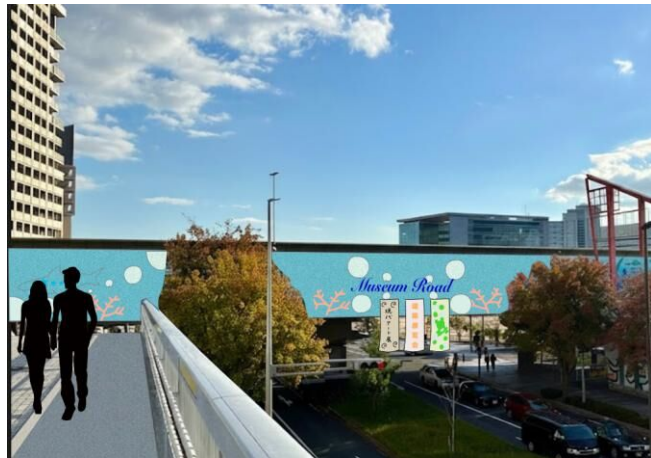


公園の再整備・パーキングメーターの設置

## テーマ③ 空間とアート

### 動き出すスタートライン

阪神高速の橋を、新たな探求への舞台の入り口に。壁面には布バナーを設置し、季節やイベントに合わせてデザインを更新。アーティスト公募により多様な表現を取り入れ、通行者にとって美術館へ続くプロローグとなる**アート空間**をつくります。



### 青りんごを探す旅

県立美術館へと続くこの区間には、すでに大型アート作品が点在しています。その作品をより引き立てるために、床面に青りんごをモチーフとしたペイントを施します。床のデザインが視線を自然に導き、歩く人の目線がアートへと流れるよう設計。通り全体をアートの余白として再構成し、既存の作品に新しいリズムを与えます。さらに街頭では神戸と親和性の強いジャズ音楽を流し、**視覚と聴覚の両面**からアート体験を演出します。歩道が、アートと音が響き合う感性の回廊へと生まれ変わります。



### 風で動く屋根

陸橋は夏は日差しが強く、日影がほとんどない場所です。そこに、海からの風を受けてやわらかく揺れる**布の屋根**を設けます。対候性布を用いた軽量構造で、風荷重を分散。通風性を保ちながら、快適な歩行空間をつくります。布は季節やイベントごとにデザインを変更でき、アート展示の一部として更新しながら、通行者の目を楽しませます。灘の海風や光の変化を感じながら歩けるこの空間は、美術館へ向かう人々をやさしく包み込む**空のアート**となります。



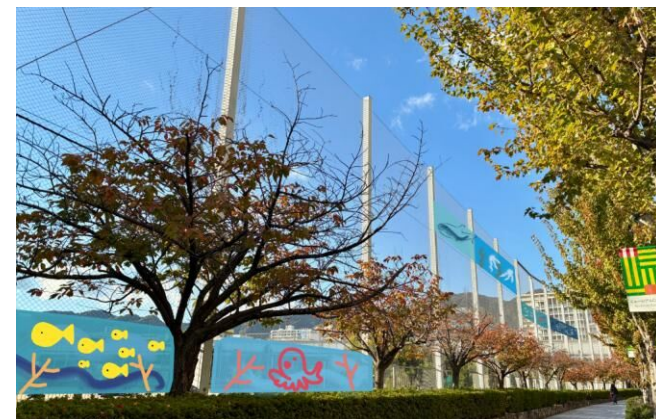
## テーマ④ 学びとアート

### 笑顔の通学路

木陰に閉ざされ暗い印象の通学路を、笑顔あふれる道へ。児童の作品を展示し、季節ごとに入れ替えます。通学するたびに新しい発見があり、通り全体が**アートギャラリー**に。子どもたちの色彩が街を明るく照らし、登下校の時間だけでなく地域にも開かれた展示として、アートが交流と学びをつなぎます。



地元中学校と連携し、グラウンドフェンスを展示空間に。毎年テーマを変えて描かれる作品が、**街の成長の記録**となります。絵が更新されるたびに、地域の風景も少しずつ変化。子どもたちがこの道の次の担い手であることを、アートが映し出します。



## 06 未来へ

道は、人をつなぎ、文化を育てます。歩く人が作品を感じ、次に何かを生み出す。その循環が、この街を少しずつ変えていきます。アートは特別な場所だけのものではなく、日々の通りの中に、誰もが関われる創造のかたちとして息づきます。この道を歩く人すべてが、未来のアーティスト。**街が育ち、アートが生きる。**その始まりが、ここミュージアムロードにあります。